



な が れ



「^{じょ}恕^{こころ}の^{そだ}心」を育てる ～^き聞く・^き聴く・^き訊く～

校長 服部 みどり



先週の木曜日と金曜日に、新宿文化センターと区内の富久小学校で、小学校理科教育の研究大会がありました。木曜日には、北里大学名誉教授でいらっしゃる大村智先生の記念講演がありました。講演で大村先生が「人とのつながり」「努力」「工夫」「発想の転換」について語っていたことが、印象に残りました。大村先生の数々の新薬の開発につながる研究は、大切な仲間や支援してくださった方がいらしたことで、大村先生本人のたゆまぬ努力から生まれていたことが、よく分かりました。

大村教授といえば、以前ある雑誌への寄稿文の中で、「恕の心」について述べられていました。大村教授の家は農家だったので、農繁期になると学校に行くことができなかったそうです。欠席すると必ず先生が様子を見に来て「えらいわね。」と声を掛けてくださることから、大村教授は「恕の心」をもつことの大切さを学んだということです。「恕」という字や言葉は日本ではあまり使われていません。中国から伝わってきた言葉です。この言葉が中国から伝わってきた時に、日本にはすでに「相手を思いやる」という言葉があったことから「恕」のままでは広まらなかったのではないかという説があります。でも「恕」の考え方は、日本にもしっかりと根付いています。「自分がされたくないことは、人にしてはならない」これが「恕」です。思いやりのある人は、他者の立場に立って考えられる人であり、他者の痛みや苦しみ、喜びを自分のことのように感じることでできる人です。その考え方は、相手に対してだけでなく自分を成長させるものでもあります。「私はすごい。」と、いくら自分だけで思っても自分を大切にすることにはつながりません。誰かの役に立っていると思えること、自分は誰かに愛されていると思えること、自分を大切に思ってくれる人がいること、自分を必要としてくれるところがあること…他者と自分をつなぐことができこそ、人を受け入れること、認めること、許すことができ、自分を大切にできる人なのです。

先日、6年生と日光移動教室に行ってきました。2泊3日の間、25人が協力しながら生活するので、一人一人が頑張るだけでなくみんなで力を合わせたり話し合ったりしなくてはなりません。自分の考えや気持ちを言葉にしなければ、相手に伝わらないことを学んできました。誰かが気持ちを伝えている時には、他の人たちは受け手になります。この時に、どのように「きく」かがコミュニケーション能力を高め「恕の心」を育てることににつながるのではないのでしょうか。そこで、「きく」という言葉について調べてみました。

- +「聞く」には、門がまえがあって、その中に耳が入っています。なんとなくきこえてくることの意です。辞書で調べると①耳でとらえる、耳に入る ②言葉を認識する と出てきます。英語でいうと hear
- +「聴く」は、耳の部分が大きくて、十四の心があります。耳を傾けてたくさんの心で感じながら注意深くきくことの意です。辞書には、傾聴するという言葉も出てきます。英語では Listen
- +「訊く」には、口という文字が含まれていて、訊問（尋問）、問いただすという意があります。人の話を深くきいて訊ね（尋ね）、耳できくのではなく、口できくということです。英語でいうと Ask

目指しているコミュニケーション能力は、「聞く」→「聴く」→「訊く」です。意思をもって、自分の考えを相手に伝えるために訊き、その相手もまた別の相手に伝えるために訊く…という伝え合いが、子供たちのいろいろな力を高めていくと思っています。

「聞く・聴く・訊く」ことを大切に、相手のことを意識して言葉を探し、そこに一人一人の気持ちを込めて伝える…うまくいかなかったら次にどうしたらいいか考え、壁に突き当たったらそれを乗り越え、他者の気持ちを感じ取る…そうやって「恕の心」を自分の中に定着させることができるよう、子供たちには指導と助言をしていきます。そして、周りにいる私たちも他者の言葉に耳を傾けることでできる自分自身を律し、より豊かな自己を確立し、自己肯定感を高めることができるようにしていきましょう。



11月の行事予定

1	水	安全指導 特別時程4校時授業1245下校(給食あり) 研究授業 5校時:4年 13:50下校 6校時:5年 14:55下校	16	木	特別時程4校時授業1~4・6年12:50下校(給食あり) 5年15:30下校 就学時健康診断
2	木	読書週間終 校外学習(オルト保育園との交流1年)	17	金	情報モラル教室5年 放課後ゼミ
3	金	文化の日	18	土	
4	土	東京都教育の日	19	日	
5	日		20	月	全校朝会 歯磨き週間始 クラブ活動4~6年
6	月	全校朝会 委員会活動5・6年	21	火	フラインドサッカー体験4年 放課後学習教室
7	火	避難訓練 放課後学習教室	22	水	B時程5校時授業 14:00下校
8	水		23	木	勤労感謝の日
9	木		24	金	神田川ファンクラブ4年 歯磨き週間終 学年発表5年
10	金	学習発表会 作品展900~1600	25	土	PTA家庭教育学級
11	土	学習発表会 音楽会900~1200 作品展1200~1500 5時間14:35下校 地域協働学校12:30~	26	日	
12	日		27	月	A時程4~6年6校時 全校朝会
13	月	振替休業日 PTAスケート教室	28	火	放課後学習教室
14	火	コティネ・ヨル・ニグ 4校時・2年 5校時・4年 6校時・6年 放課後学習教室	29	水	B時程4校時授業13:10下校 6年研究授業5校時14:30下校
15	水	B時程4校時授業 13:10下校	30	木	小学校音楽の集い6年

学年の窓 ~6年~

6年担任 坂井 直樹

10月16日から18日にかけての2泊3日で、日光移動教室に行ってきました。奥日光湯ノ湖周辺の朝の気温は4℃で、とても寒い中の移動教室となりましたが、日中は晴天にも恵まれ、自然体験や歴史体験など、充実した3日間となりました。子供たちの感想文を紹介します。

○陽明門がとてもきれいな金色になっていました。眠り猫は知っていたけれど、眠り猫の後ろにすずめがいることを知らなくてとてもびっくりしました。

○ぼくはこの3日間、すごいいっぱい日光について学びました。自分の知らない自然を体験できて、日光のすばらしさを改めて知りました。

○華嚴の滝・竜頭の滝・湯滝は、いつまで見ていても飽きないほどでした。特に華嚴の滝の大迫力が心に残っています。

○日光移動教室は本当にあつという間でした。2日目の夜寝る前に「明日は帰るんだなあ」と思い、さびしくなっていました。日光の3日間は楽しくて、笑顔が絶えませんでした。最高の思い出になりました。

○一番学んだことはみんなで協力することです。みんなで助け合い協力できるようにこれからがんばります。

日光移動教室での思い出、学んだことを忘れず、卒業までの学校生活をさらに充実したものにしていきます。

学習発表会に向けて

学習発表会委員長 林 愛奈

来る11月11日(土)に本校で学習発表会を開催いたします。本年度は作品展と音楽会の催しとなります。

4月から図工や音楽、家庭科で学習してきた成果を発表します。図工では、平面や立体の作品をテーマにそって各自がイメージを膨らませ作品化しています。音楽では、歌唱と器楽の表現を通して、それぞれの学年の個性を生かし、心を込めて演奏することができるよう練習に励んでいます。高学年の家庭科は、手縫いやミシンがけで身近な物を作っています。これらの取り組みを通して、子供たちの感性や創造性は大きく育まれると思います。

この発表会には保護者や地域の方々の協力もあります。作品展では、保護者と地域の方々並びに、オルト保育園としんえい子ども園もくもくの作品が会議室に展示されます。音楽会では保護者と地域の方々による合唱もあります。このように当日はたくさんの作品にふれることができます。是非、お子さんと一緒に鑑賞していただき、感動を分かち合ってください機会となることを願っております。

【開催日時】

作品展 10日(金) 9:00~16:00

11日(土) 12:00~15:00

音楽会 11日(土) 9:00~12:00

図工室から

図画工作担当 山内 泰子

子供たちは週2時間、図工を学習しています。学年によって図工の時間数も違い、高学年になる程時数は減り、中学校では更に低学年の半分ほどになってしまいます。学力を重視する上で仕方の無いことではあります。が、図工の様子を見ていると、学力にも劣らず大切な力が培われる時間だと感じます。

何かを作るには、そのための知識や技能は勿論、それ以外のことも必要になってきます。物や道具を大切に安全に扱うことやきちんと片付けすることなど、当たりまえの事を当たり前のようにもなってもらいたい。自分で作りたい物を考え、自分の知識や工夫を生かして、じっくりと作品に向き合う集中力も付けてほしい。作ることや見ることを楽しさを感じ、自信をもって表現し、友達の作品や人権も大切にできるようになってほしい。・・・図工で付けたい力は本当に多様に沢山あります。

しかし一方で、小さな花びらを手に載せてじっと見入ったり、水たまりに映った空の青さに気付いたりしている子供の姿を見ると、これが一番大切な事のように感じます。

何も言わなくても子供たちの中にすでにある感性、大人になるといつの間にか摩耗していくこともある豊かな感性、子供たち一人一人の中に必ずある感性こそを大切にしたいものです。

作品展では平面作品1点、立体作品2点、保健室前の廊下やピロティ、図書室やその近辺の廊下などに展示します。上手下手という観点ではなく、子供の思いに寄り添って子供の中の豊かさを見付けていただけたらと思います。